



2017.1.15

URAWA RED DIAMONDS OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM



EXTRA
SINCE 1992
SEASON 26



REDS
025th
We stand
beside you
forever always

Mihailo Petrovic

● PROFILE

1957年10月18日生まれ。ロズニツァ（旧ユーゴスラビア、現セルビア）出身 国籍：オーストリア

ユーゴスラビアの名門、レッドスター・ベオグラードのユースチームで育ち、同国のFKラド・ベオグラードでプロ選手としてのキャリアをスタート。93年に引退し指導者となった。96年から2年間、後に日本代表監督となるイビチャ・オシム氏が監督をするSKシュトルム・グラーツ（オーストリア）で、アシスタントコーチ兼アマチュアチーム監督を務めた。

2006年6月から2011年まで、サンフレッチェ広島島の監督を務め、同クラブの礎を築いた。

2012年、浦和レッドダイヤモンズの監督に就任。今季、6シーズン目を迎える。愛称はミシャ。

浦和レッズの歴史の中で、 昨季は最も良いシーズンの一つ 継続は終わらない、 すべてにおいてバージョンアップを

みなさん、こんにちは。
2017シーズンが始まりました。
約1か月後には、富士ゼロックススーパーカップが行われ、続いてAFCチャンピオンズリーグ、明治安田生命J1リーグも開幕します。

新しいシーズンに入る前に、昨季の浦和レッズがどうだったか、私はどう見ているかをお話ししておきたいと思っています。

まずACLに関しては、何としてもグループステージを突破しようという目標を持って戦いました。レベルの高い厳しいグループで、どの試合も非常に緊迫感のあるものでしたが、我々はノックアウトステージに進むことができました。ラウンド16はアジアでも一、二を争う力を持ったFCソウルとの対戦で、非常に拮抗した戦いを繰り広げ、勝つチャンスもありながら最後にPK戦で負けてしまいました。

ACLの敗退が与えた影響は大きいものでした。肉体的な疲労も精神的なショックも負ったままリーグ戦に戻り、そこから引き分けの後、3連敗してしまいました。非常にタイトな日程で、一度歯車が狂うと立て直すのが難しい上、強い相手との3連戦と、すべてが悪い方へ流れた時期でした。

選手たちには、必要以上に下を向く必要はない。サッカーなのでこういう時期はある。しかし方向を誤ったら、間違いを取り戻すことはできない。そういうことを言いました。選手たちも、このままでは終われない、うまくいかないときこそ自分たちの力が試されると奮起し、そこから非常に良い戦いを続けたと思います。

そして、レッズは長い間優勝から遠ざかっていましたが、埼玉スタジアムでYBCルヴァンカップのタイトルを獲得しました。選手たちが「監督のために」と言ってくれましたが、私はレッズに関わる多くの方々が待ち望んでいたものを届けることができ、非常にうれしく思います。

私が監督に就任して5シーズンがすぎましたが、YBCルヴァンカップの優勝やACLのグループステージ突破、史上最多勝点でのリーグ戦年間1位など、昨季はレッズの歴史の中でもベストなシーズンの一つだと言っているのではないかと思います。

2ステージ制とチャンピオンシップという、この2年間のレギュレーションに関しては、日本サッカーの将来のためにもしっかりと検証する必要があると思います。

2年間だけの制度のために、我々は非常に痛い思いをしました。しかし立ち上がれなくなったわけではありません。選手たちはこの経験必ず生かし、今季さらに大きなものを手に入れるために戦うでしょう。

先ほど、昨季がレッズの歴史の中で最も良いシーズンの一つだと言いましたが、それは5年間の継続により培ってきたものです。そして継続に終わりはありません。今季は、すべてにおいてバージョンアップを目指します。

そして、今後も浦和レッズというファミリーの結束を強く、歩き続けます。

2017年、みなさんが健康で過ごされることを、そして一緒に歩き続けてくれることを願っています。

Misha

多くの方々に来ていただけるように

浦和レッドダイヤモンズ 代表 淵田敬三

いつも浦和レッドダイヤモンズにご声援をいただき、ありがとうございます。

2016シーズンの浦和レッズは、リーグ戦では年間勝点1位であり、それもJリーグ史上最多タイの勝点74を取っての1位でした。さらにYBCルヴァンカップも優勝できましたし、2ndステージも獲りました。そういう点においては素晴らしい成績だと言えます。またリーグ戦の失点はミシャ監督就任後最少です。これはシーズン当初から目指していた、相手陣内でプレーする時間を長くする、ということがだいふ根付いてきたからだと思います。シーズン中にリオ五輪や日本代表戦で選手が何人かチームを離れたときも、浦和レッズらしいサッカーができていました。ですから、良いシーズンだったと胸を張って言うていいと思っています。

その半面、最後にチャンピオンになれなかったことについては、何かが足りなかったということかもしれません。勝ちたい気持ちもチームの結束も十分にあったと思いますが、あのチャンピオンシップ決勝第2戦に関しては、もしかしたらもっと強い闘志やもっと強固なまとまりが必要だったのかもしれない。

2016シーズンの入場者数は、リーグ戦17試合で見ると昨季より平均で1試合あたり約1,800人減っています。開幕戦やさいたまダービーなど5万人以上の入場者があった試合で、勝てなかったということも要素としてあると思いますが、2ndステージの川崎F戦やG大阪戦などが思ったより伸びなかったのは、最後はチャンピオンシップで決着するんだから、という見方があったのではないかなとも思っています。

一方、ルヴァンカップやACL、チャンピオンシップなど全てのホームゲームを合わせた平均で見ると昨季より463人増えています。詳しい分析はこれからしていかななくてはなりませんが、シーズンチケットの販売が順調で昨季を上回る勢いにありますから、レッズの魅力が落ちているというわけではないと思っています。

昨年11月、クラブの株主構成が変わりました。

これまで三菱自動車工業が株式の50パーセント強を保有していましたが、その全数を三菱自動車と三菱重工業が共同出資する新会社、ダイヤモンドF.C.パートナーズ(株)に譲渡しました。両社の新会社への出資比率を考慮すると、三菱自動車の比率は全体の20パーセント弱となり、三菱重工が30パーセント強となりました。

また、発行株式を3200株から800株の増資を行い、4000株に増やします。新会社が保有する株は50パーセン

ト強という割合は変わりませんが、それ以外の増資分に関しては、ホームタウンの地元企業を中心に新しく持っていただくことになり、株主である企業が、地元を増えることになります。

2017シーズンのチームの目標に関しては、現在ミシャ監督と話し合っているところですが、昨季より上を目指していきます。

昨年末、ミシャ監督は「すべてにおいてバージョンアップする」と言いました。これまでやってきたことに間違いはないが、それをさらに高めていくことが大事だということです。

私は、これをチームだけにとどまらずクラブ全体の合言葉にしたいと思っています。それぞれのセクションで一人ひとりが仕事の質を高めていくように呼びかけています。

また、我々の存在意義は何なのか、ということをおためクラブ全体に問いかけました。スタジアムに来てくださった方々に感動して帰っていただくことが、明日へのパワーにつながり、人生を豊かにし、心を豊かにする。それが幸せな国づくりにつながる。自分の仕事があることに結び付いているのかどうかを見直して欲しいと思っています。

面白くワクワクする試合を提供していくことはもちろんですが、スタジアムのホスピタリティやイベント、雰囲気作りなども含めて、一人でも多くの方がスタジアムに来ていただけるよう、努力していきます。

2017シーズンも、みなさんと共に歩んでいきたいと思っています。

<2017 トップチーム スタッフ>

- | | |
|---|------------------------------------|
| ■監督
ミハイル・ペトロヴィッチ
(Mihailo Petrovic) | ■アスレティック・トレーナー
野崎信行 (のざき・のぶゆき) |
| ■コーチ
堀 孝史 (ほり・たかふみ) | ■トレーナー
齋藤秀人 (さいとう・ひでと) |
| ■コーチ
天野賢一 (あまの・けんいち) | ■アスレティック・トレーナー
西垣輝光 (にしがき・てるみつ) |
| ■コーチ
杉浦大輔 (すぎうら・だいすけ) | ■トレーナー
鈴木 仁 (すずき・ひとし) |
| ■GKコーチ
土田尚史 (つちだ・ひさし) | ■通訳
ロドリゴ・シモエス |
| ■アシスタントコーチ
長嶺寛明 (ながみね・ひろあき) | ■主務
水上裕文 (みずかみ・ひろふみ) |
| ■メディカル・ディレクター
仁賀定雄 (にが・さだお) | ■副務
関 敬浩 (せき・としひろ) |
| ■ドクター
関 芳衛 (せき・よしえ) | ■副務
神原一輝 (かんばら・かずき) |

昨季の失点の経験を生かして

① GK 西川周作

★広島から加入4年目。30歳。日本代表としてワールドカップアジア予選を戦いながら、毎年リーグ戦フル出場を続けている。昨季、Jリーグベストイレブン。

▼Jリーグ355 (34) 試合出場、ルヴァン杯29 (1) 試合出場、天皇杯15、ACL23 (8) 試合出場。

◆今季は目に見える結果を出す、それだけです。昨季のリーグ戦28失点というのは、全体から見れば少ないですけど、まだまだ防げた失点もありました。昨季の経験を生かしていきたいと思っています。レッズは確実に勝点も増えてきているので、非常に楽しみです。今季は獲れるタイトルはすべて獲りたいですし、特にACLは最初にあるので、絶対に勝っていききたいです。

開幕から連戦で、選手として望むところ。良い入り方をしたいと思っていますし、そのためにキャンプで良い練習をしたいです。榎本(哲也)さんは親しみやすい先輩ですし、よく話もしてくれます。僕もいろんなものを盗みたいと思っています。



今季はチーム引っ張る存在に

③ MF 宇賀神友弥

★流通経済大から加入8年目。28歳。左ウイングバックが定位置。自身が攻守に活躍するのみならず、近くのボジションの選手を生かしている。また楨野が不在の試合では左ストッパーを務めた。

▼Jリーグ183 (26) 試合出場12 (3) 得点、ルヴァン杯28 (4) 試合出場2得点、天皇杯13 (1) 試合出場3得点、ACL13 (5) 試合出場1 (1) 得点。



◆自分が入ってフシーズン、タイトルがないという重圧がありました。昨季ルヴァンカップを獲って解放されました。自然と涙が出てきて、優勝するというのは、こんなに苦しかったんだ、と実感しました。昨季の最終節で勝てれば勝点76でしたが、Jリーグ最多タイの74で終わってしまったので、次は76を目指すという目標ができました。どのチームも無理だという数字を出したいです。個人的にはゴール5アシストで10点に絡めれば、と思います。年齢的にもベテランになってくるので、今季はもっと責任感を持ってプレーし、チームを引っ張っていく存在になりたいです。

出ていない時期の鍛錬怠らず

④ DF 那須大晃

★柏から加入5年目。35歳。昨季は前年に比べ出場数が半減したが、試合に出場していない時期には「こういうときだからこそ、できることがある」と、練習後の自主練で自分を追い込み、出番に備えた。2ndステージ開幕の福岡戦では、昨季リーグ戦先発2試合目ながら、セットプレーから得意のヘディングで同点ゴールを決め、数的不利な試合を逆転勝利につなげた。プレッシャーがかかる状況の試合でも「いつもと変わらない」と語り、平常心を保ち続けた。

▼Jリーグ382 (14) 試合出場29 (1) 得点、ルヴァン杯74 (4) 試合出場4得点、天皇杯28試合出場1得点、ACL22 (3) 試合出場4得点。



勝負へのこだわりをさらに

⑤ DF 楨野智章

★1.FCケルンから加入6年目。29歳。昨季は相手のエースをマークし、自由に仕事をさせない試合が目立った。8月に右脚太もも裏を肉離れし公式戦計5試合を欠場した。Jリーグベストイレブン。



▼Jリーグ246 (29) 試合出場35 (3) 得点、J2リーグ41試合出場7得点、ルヴァン杯27 (1) 試合出場3得点、天皇杯20試合出場2得点、ACL22 (7) 試合出場2得点。

◆昨季は、時間を割いて守備のテク入れを行い、前年40点あった失点を28にまで抑えました。しかしリーグチャンピオンにはなれませんでした。これ以上何を变えればいいのかを考えると、一人ひとりのレベルアップはもちろんですが、決めるべきところを決める決定力、やられてはいけないうところで身体を張って抑える。そういう勝負へのこだわりをさらに出していくことだと思います。あと少しのところかもしれないですが、それが大きな結果になって出てくると思います。その上で、リーグ優勝はもちろんですが、アジアの舞台で日本のクラブが頂点を目指す戦いを見せていかなければなりません。ACLを獲りたいです。

成長した1年、今季も継続を

⑥ DF 遠藤 航

★湘南から加入2年目。23歳。昨季はリーグ全試合に出場し、2年連続2ケタ得点を挙げた。

▼Jリーグ81(27)試合出場8得点、J2リーグ104試合出場15得点、ルヴァン杯5(3)試合出場、天皇杯8(1)試合出場、ACL6(6)試合出場。

◆自分が成長するためにはレズがベストだと思つて移籍してきましたが、本当に成長できた1年でした。特にACLは良い経験でした。負けはしましたが、アジアの頂点との距離はあまりないと感じました。力が拮抗していて、ミスをした方が負けてしまいます。FCソウル戦は、これまで一番悔しかった試合です。

ルヴァンカップ決勝のPKは、後ろからサポーターの支援を受けて、ボールを置いた瞬間、決まると思いました。シーズン当初はミスをすると思われ、落ち込みましたが、その厳しい目が成長につながったとも思っています。

今季は特にリーグ優勝と、ACL優勝でFCWCに出場することを強く思っています。そのためには継続が大事です。



あせらず前向きに復活を誓う

⑦ MF 梅崎 司



★大分から加入10年目。29歳。昨季は左右のウイングバックまたはシャドーのポジションで、公式戦ほとんどの試合に出場していた。1stステージ最終節の神戸戦では、後半40分、自分が獲得したPKを志願して蹴り、シーズン初ゴールでルヴァンカップ準々決勝第1戦の神戸戦で、右膝前十字じん帯を損傷。全治約6か月と診断された。本人は非常に前向きで、ルヴァンカップ決勝も「PK戦は自分が出ているよりも緊張した」と、一緒に闘っていた。やや照れながらもカップを掲げ、サポーターからチャントが起き、感動した。

「またこのチームで競争して試合に出たいという気持ちが強くなったがあたりはない。しっかりと自分と向き合っている」と完全復活を誓っている。

▼Jリーグ237(19)試合出場30(1)得点、ルヴァン杯29(1)試合出場7得点、天皇杯22試合出場4得点、ACL16(0)試合出場1得点。

スピードや個人技が持ち味

⑧ FW ラファエル・シルバ

★新潟から今季新加入。24歳。ブラジル。サンパウロ出身で、コリンチャンス、コリチバなどでプレーし、スイスのFCルガーノから2014年8月に新潟入り。攻撃の中心選手となった。レズとの公式戦では出場した4試合のうち3試合で得点している。

▼Jリーグ47(23)試合出場19(11)得点、ルヴァン杯11(2)試合出場2得点、天皇杯4(2)試合出場5(4)得点。

◆優勝争いのできるチームでプレーしたいという思いをずっと持っており、今回レズに加入することができてうれしいです。チームがタイトルを獲得するのに貢献していきたいです。

レズは規律あるポゼッションサッカーのチームなので、自分が改善しなければならぬ部分も出てくると思います。が、そういう努力をする覚悟はあります。起用してもらったポジションでベストを尽くしますが、希望があるとすればシャドーです。ゴールを前にしてスピードや個人技で打開するという自分の持ち味を出せる場所ではないかと考えています。



*写真=Jリーグフォト

一番大事な試合でゴールを

⑨ FW 武藤雄樹

★仙台から加入3年目。28歳。昨季はリーグ全試合に出場し、2年連続2ケタ得点を挙げた。



▼Jリーグ136(34)試合出場31(12)得点、ルヴァン杯22(5)試合出場3(1)得点、天皇杯14(1)試合出場5得点、ACL14(6)試合出場4(3)得点。

◆昨季は、1年目がまぐれではないことを証明したかったので、2年続けて2ケタゴールを取れたことは良かったですが、1年目より少なかったため、それは少し残念に感じています。

今季は、すべての大会でタイトルを獲得することがチームの目標になります。何かを変えようというより、やってきたことをさらに突き詰めていくことや、リードした試合を勝ちで終わらせる試合運びを身に付けたいといけません。個人的には1年目の13得点を上回りたいです。

昨季は1stの川崎F戦や、2ndの磐田戦など大事な試合でゴールを決めることができて自信になった部分はあります。しかし最後に結果を出さないとプロプレッシャーのかかった試合でそれをなし遂げたいと思っています。

優勝の喜び仲間と味わいたい

⑩ MF 柏木陽介

★広島から加入8年目。29歳。昨季J1通算50得点を挙げ、またJ1通算300試合出場を達成した。日本代表にも定着を目指す。Jリーグベストイレブン。

▼J1リーグ309(33) 試合出場50(5) 得点 J2リーグ31試合出場4得点 ルヴァン杯48(1) 試合出場6得点 天皇杯24(1) 試合出場3得点 ACL18(2) 試合出場1得点

◆あれだけ勝点が離れた相手にチャンピオンシップで負けて優勝できなかったことは本当に悔しいですが、それが勝負の世界ですし、自分の力のなさが一番悔しいです。しかしルヴァンカップも獲れましたし、年間を通してすべての選手に関わって戦えたことが良かったと思います。

自分自身は試合をコントロールし、一つ大人のサッカーができるようになったと思います。レッズに来てから一番充実していました。また終盤の疲れたときに、より走ることチームを鼓舞することも自分の仕事だと思っています。



ルヴァンカップの優勝で、この幸せな思いを何度もみんなと味わいたいと本当に実感しました。毎年、前年より強いレッズを見せたいですし、今季は獲れるタイトルを全部獲りたいです。

無念の疲労骨折から復帰を

⑬ FW 高木俊幸



★清水から加入3年目。25歳。昨季は、「1点取れば続けて取れる」という言葉を実証。ルヴァンカップ準々決勝で昨季初ゴールを挙げると、リーグ戦でも連続ゴール。準決勝でも活躍し決勝進出を牽引した。その好調ぶりからリーグ戦終盤でも先発を続けた。

今季は開幕から活躍が期待されたが、年明けに右足第5中足骨を疲労骨折。1月10日に手術をし、全治まで約3か月の見込み。シーズン途中からの復帰が待たれる。

▼J1リーグ155(14) 試合出場24(2) 得点 J2リーグ30試合出場6得点 ルヴァン杯27(5) 試合出場8(4) 得点 天皇杯17(1) 試合出場6得点 ACL6(2) 試合出場

出番少なくても貢献したい

⑭ MF 平川忠亮

★筑波大から加入16年目。37歳。昨季は初めてリーグ戦出場なしに終わったが、ルヴァンカップ準決勝第1戦で武藤のゴールをアシストした。最年長としての立ち居振る舞いでもチームの力となる。

◆昨季はチームとして、目標にしていた前年を超えるというところは達成できましたし、うまくいったことが多かった年だと思えます。今季はリーグ戦を始めもっとタイトルを獲得していくこと、勝点でも昨季を上回ることが目標になります。

個人としては、試合出場は多くなくても勝利に貢献できるだけの準備を1年間やっていきたいと思えます。昨季は出場機会にアシストという結果を出せて、その大会でタイトルを獲得したということが選手として非常にうれしかったです。まだまだチャレンジしていきたいと思わせてくれるワンプレーでした。

試合に絡む絡まないによらず、すべての選手がチームに貢献できるように、そこでも力になっていきたいと思えます。



10年ぶりの国内タイトルとなった昨季のYBCルヴァンカップ

応援に感謝し、恩返ししたい

⑫ MF 長澤和輝

★期限付き移籍先の千葉から今季復帰。25歳。専修大時代に関東大学リーグ3連覇、ユニバーシアード3位などの実績を残し、2014年にJFCケルン（ドイツ）に加入。昨年、レッズに移籍すると同時に千葉に期限付き移籍。ドイツ時代にケガで試合から遠ざかっていたため、出場経験を積んだ。

▼J2リーグ41（41）試合出場4（4）得点、ルヴァン杯1試合出場、天皇杯3（3）試合出場1（1）得点。

◆レッズには能力がある選手が多くいますし、チームとしての完成度も高いです。見ていてすごく勉強になりました。千葉では中盤の外やトップ下、ボランチなど中盤のポジションをいろいろ経験させてもらいました。どこで使われても、役割をしっかりと判断し、求められたプレーができるよう考えながらやりたいです。

サッカー選手として、熱いファン・サポーターに応援されてプレーするのは幸せなことだと思います。それは限られた人しかできないので、感謝の気持ちを持ちつつ、結果で恩返しできるように、一生懸命やります。



*写真=Jリーグフォト

まずはキャンプをしっかりと

⑬ MF 青木拓矢

★大宮から加入4年目。27歳。昨季は公式戦50試合中49試合にメンバー入りし、レッズ加入後最多のリーグ戦出場。柏木の不在、不調時にはボランチの先発を務めた。天皇杯4回戦ではゴールも挙げた。



▼J1リーグ194（24）試合出場12得点、ルヴァン杯31（4）試合出場2得点、天皇杯17（1）試合出場1（1）得点、ACL10（6）試合出場。

◆シーズン前の気持ちとしては、いつもと変わるところはありません。またキャンプで一から始まると思っています。去年の優勝経験や、勝点1位になった経験を生かせれば、と思いますが、それも始まってみなければわかりませんし、まずはキャンプでしっかりと準備をすることが大事です。レッズではこれまでケガや体調不良のために、キャンプの全部をこなしたことがないので、今季はまずそこから気を付けて臨みたいです。

昨季は先発でも途中出場でも試合にしっかりと絡めていたので、そこは継続していきたいと思っています。

3バックの左が一番やりたい

⑭ DF 田村友

★福岡から今季期限付き移籍。24歳。福岡大学4年時に福岡の特別指定選手となり、2015年に福岡入り。その年の後半から出場し、J1昇格に貢献した。福岡との公式戦には契約により出場できない。

▼J1リーグ16（16）試合出場、J2リーグ18試合出場、ルヴァン杯6（6）試合出場1（1）得点、天皇杯3（1）試合出場1（1）得点。

◆レッズには代表選手を始めレベルの高い選手が多く、競争が激しいことはわかっていて、移籍を決めました。自分は福岡から出たことがなく、環境も変えたかったです。自分の成長につながるのには間違いないので、やるからには負けない気持ちでやります。ポジションとしては3バックの左が一番やりたいところです。左でも蹴れるのは自分の長所なので、そこで違いを見せていきたいです。

昨季レッズと対戦したときは押されっぱなしで、守る時間が長かったです。自分もDFですけど、攻めるのが好きなのでそこは合っていると思います。



絶対にリーグ王者になりたい

⑮ MF 駒井善成

★京都から加入2年目。24歳。昨季は加入1年目で公式戦50試合中47試合でメンバー入りし、出場するとドリブルによる突破で見る者を沸かせた。シーズン後半は右ウイングバックでの先発が増え、チームの得点にも絡んだ。

▼J1リーグ23（23）試合出場、J2リーグ171試合出場16得点、ルヴァン杯4（4）試合出場、天皇杯13（1）試合出場3得点、ACL6（6）試合出場。



◆昨季1年の上積みがあるので、昨季とは違う気持ちでキャンプにも向かえると思います。昨季は、思ったより慣れるのに時間がかかりましたが、みんなのサポートのおかげでシーズン後半は自分の持ち味が出せたと思うので、今季はあれを最低限として、自分としてのプラスアルファを出していきたいです。

ルヴァンカップ優勝はうれしかったですが、最後に負けてしまったことで、喜びが半減、それ以下になってしまいました。あれだけ悔しい経験はサッカー人生の中でもそうありません。しばらく力が抜けていましたが、鹿島の活躍を見て、また気持ちに火が付ききました。今季は絶対にリーグチャンピオンになりたいです。

優勝の目標に向け貢献したい

⑱ FW オナイウ阿道

★千葉から今季新加入。21歳。埼玉県児玉郡神川町出身で、正智深谷高校から2014年に千葉入り。U-23代表としてリオ五輪出場に貢献し、本選ではバックアップメンバーとして登録された。

▼J2リーグ62(23) 試合出場10(6) 得点 天皇杯5(1) 試合出場1得点



*写真=Jリーグフォト

◆レッズのような大きなクラブからオフアーを受けてうれしい気持ちとびっくりしたというのがあります。自分は前線で身体を張れるので、そこを評価してもらったのかな、と思います。レッズのサッカ―は独特だと思いますが、サイドからクロス上げる選手がいるので僕は中でターゲットになれると思いますし、ボランチや真ん中にはうまい選手が多くて、ボールはたくさん出てくると思いますから、自分が何回も動き直してというのを狙っていれば、チャンスは作れると思っています。

日本のチャンピオンになるというチームの目標に向けて、1日も早く試合に絡んで貢献できるようにするのが自分の目標です。

すべてに手が届く位置にいる

⑳ FW 李 忠成

★サウサンプトン(イングランド)から加入4年目。31歳。昨季はレッズ加入以来初のリーグ戦2ケタゴールを挙げた。ルヴァンカップ決勝では勝利につながる同点ゴールでMVPに輝いた。さらに前線での連係で味方の得点を演出した。

▼J1リーグ250(32) 試合出場64(10) 得点 J2リーグ31試合出場8得点

ルヴァン杯42(5) 試合出場13(2) 得点 天皇杯16(1) 試合出場5得点 ACL16(5) 試合出場5(2) 得点

◆昨季のリーグ戦10得点は、自分では最低ラインだと思っていますが、同点ゴールや決勝ゴールを決めたことは、それが自分の仕事だと思っています。そして、それ以上にチームの得点に多く絡んだことには手ごたえを感じています。練習で阿吽(あ・うん)の呼吸ができていますからこの連係だと思っています。

今季はミッドサッカ―の集大成です。一歩ずつ階段を昇ってきて、非常に成熟したサッカーになっていると思います。すべてのタイトルに手が届く位置に僕らはいると思いますから非常に楽しみです。その中でポジション争いをして自分のプレーでチームに貢献したいです。



身体を張って攻撃を支える

㉑ FW スラタン



★大宮から加入4年目。33歳。昨季は、リーグ開幕の柏戦で1ー1からの決勝ゴールを挙げ、勝利に貢献。2ndステージの名古屋戦では、西川の蹴った長いFKを、相手DFをかわしてゴールへ蹴り込み、3連敗の後の10試合連続無敗を決定づけた。

リーグ戦でのゴールは来日以来最少タイの4点に終わったが、前線で身体を張るプレーでチームの攻撃に貢献した。リーグ戦では途中出場が多かったが、フォア・ザ・チームの精神を崩さず、練習への取り組みや日常の生活でもチームメイトとの連係を大事にしていた。

▼J1リーグ126(26) 試合出場29(4) 得点 ルヴァン杯8(5) 試合出場2(1) 得点 天皇杯7(1) 試合出場3得点 ACL11(8) 試合出場2(1) 得点

また勝点で一番上を目指す

㉒ MF 阿部勇樹

★レスターから加入6年目。35歳。昨季はキャプテンとしてチームを牽引しながら、2ndステージ第14節G大阪戦でJ1通算500試合出場を史上最年少で果たした。2013シーズン第11節からJ26試合連続先発フル出場を継続中。Jリーグベストイレブン。

▼J1リーグ503(34) 試合出場68(1) 得点 ルヴァン杯65(4) 試合出場13(1) 得点 天皇杯24(1) 試合出場4得点 ACL33(6) 試合出場4得点

◆昨季は悔しい結果もありましたが、ここ数年の中では一番良かったシーズンではなかったかと思っています。以前なら落としたような試合を勝ち切れたことも多かったたので、それはチームに力が付いてきたんだと思います。



リーグ最終節で、サポーターのみなさんがシャールとCHAMPIONSの文字を描いてくれたことは非常にうれしかったです。1シーズン一緒に戦ってきたことを表していると思います。

今季、どのチームも強化していますから簡単ではないですが、また勝点で一番上を獲りたいです。そして浦和の街がどうなるか、見たいです。

ガッツガツ挑戦するのが大事

② GK 岩館 直

★水戸から加入4年目。28歳。期限付き移籍から完全移籍となった昨季は、ルヴァンカップ4試合と天皇杯でベンチ入りした。練習後、攻撃陣と共に居残り練習を行い、自分を鍛えると同時にチームに貢献してきた。

▼天皇杯4試合出場。



◆昨季、大谷がルヴァンカップで活躍して、今季から新天地で挑戦します。レッズでルヴァンカップのピッチに立つことができれば、新しい世界が開けると思います。もっと自分の能力を上げていかなければ、そんなに簡単に手に入るものではないです。そんな簡単に手に入るものだとはいけません。今季どこまでガッツガツとチャレンジしていくかが大事だと思うので、その気持ちを前面に出してやっていきたいです。今季は榎本さんが加入しましたが、ライバルとして切磋琢磨していきたいと思っています。

レッズのチームとしてのレベルの高さは昨季証明できたと思います。それを2年目も継続するのは大変だと思いますが、チャンピオンシップを獲得なかったことが、みんなの大きなモチベーションになっていると思います。そこに自分が置いていかれないようにしたいです。

左右どちらでも競争に勝つ

② MF 関根 貴大

★ユースから昇格4年目。21歳。昨季はチーム事情により左ウイングバックで起用されることも多くなった。2ndステージの新潟戦で興梠のJ1通算100ゴールをアシストした。

▼J1リーグ85(32) 試合出場10(2) 得点、ルヴァン杯13(5) 試合出場、天皇杯8(1) 試合出場3得点、ACL7(6) 試合出場。

◆シーズンが始まる前のワクワク感とポジション争いの危機感は毎年変わりますが、今季、多少の自信がついたかな、というくらいです。昨季、右でも左でもできることを見せられたのは良かったです。が、どちらでもライバルたちに勝てていけないといけません。

ルヴァンカップ優勝は、人生初めてのタイトルなのでうれしかったです。ああいう大会でPK戦になったときにキッカーを務められるような選手になりたいと思っています。昨季3回のPK戦は見ていただけだったので。

チャンピオンシップの敗退は、なぜだろうと思います。ああいう最後の大きな試合では気持ちの部分が大きいと思います。あの試合で途中交代になった自分が情けないです。



決断する背中を押してくれた

② GK 榎本 哲也

★今季、横浜FMから新加入。33歳。神奈川県生まれで小学生時代から横浜FMの育成チームで育ち、2002年にトップ昇格。激しいポジション争いも経験する中で、多くの試合で出場を勝ち取ってきた。2003年、2004年のリーグ優勝、2013年の天皇杯優勝も経験している。



*写真=Jリーグフォト

▼J1リーグ238(23) 試合出場、ルヴァン杯59(10) 試合出場、天皇杯21(3) 試合出場、ACL11試合出場。

◆レッズが僕を欲しいと最初に言ってくれたことが、移籍を決めたすべてです。ずっとマリノスで全てを終える気持ちだったので、決断には勇気がいりましたけど、レッズが背中を押してくれました。

(西川)周作のようなレベルの高いGKと一緒にできるチャンスは、これを逃せばなかったと思います。周作は、総合的な能力はむしろ高いですが、大事な試合で結果を引き寄せる力を持っていると思います。



左から菊池大介、矢島慎也、オナイウ阿道、榎本哲也、田村友、ラファエル・シルバ、長澤輝

球際の強さを鍛えていきたい

26 MF 伊藤涼太郎

★岡山作陽高から加入2年目。18歳。昨季はリーグ開幕の柏戦でベンチ入り。1stステージ第9節の名古屋戦でJリーグデビューを果たした。その後、メンバー入りの可能性が高いルヴァンカップの前に、左足を痛めた。

▼Jリーグ(1) 試合出場。

◆昨季に比べて身体は一回り二回り大きくなりました。開幕からやってやろうという気持ちは昨季と変わっていません。プロの世界というのがどういふものか、ある程度わかったので2年目は勝負の年だと思っていますし、昨季よりも多くの試合に出て、多くの結果を出せるようにしていきたいです。

攻撃の部分では自分のストロングポイントであるパスやドリブルは通用すると思いますが、守備のところでは中盤での球際の強さがもっと求められるので、そこを鍛えていきたいと思っています。キャンプでも自分の身体と相談しながら、どんどん追いついていきたいです。

気をつけなければいけないのはケガです。昨季は大事な時期にケガをしてしまったので、予防も含めてケガなく1年を終えたいです。



治療中に足りないものを補う

28 GK 福島春樹



*写真=Jリーグフォト

★専修大学から加入2年目。23歳。一昨年から特別指定選手としてチームに合流。昨季は正式加入後、7月にJ3リーグの鳥取に期限付き移籍し出場経験を積んだが、10月に右膝前十字じん帯を損傷。全治約8か月の診断を受けた。今季、レッズに復帰。まずはリハビリに努める。

▼J3リーグ14(14) 試合出場、天皇杯2(2) 試合出場。

◆鳥取で、毎週試合ができる環境に身を置けたのは自分にとって大きかったです。試合をこなすことで、レッズでは得られなかった試合勘というものを身に付けられたと思います。そこでは期限付き移籍した甲斐があったと思っています。

ケガをしてしまったのは残念ですが、しっかり治すだけでなく試合に出て気がついた自分に足りないものを補っていきたいです。具体的にはハイボールに対して物怖じしていたところがあったので、当たり負けのしない上半身を作りたいです。ムキムキになろうと思ってます(笑)。昨季の終盤は、レッズらしさをあらためて実感しました。レッズの良さが出た1年だったと思いますし、自分もその中に入ってチームに貢献できるようにしたいです。

胸を張っていい昨シーズン

30 FW 興梠慎三

★鹿島から加入5年目。30歳。昨季はリーグ戦で自己最多の14点を挙げ、史上12人目のJ1通算100ゴールを達成した。

▼Jリーグ312(30) 試合出場100(14) 得点、ルヴァン杯52(6) 試合出場14(3) 得点、天皇杯29(1) 試合出場11(1) 得点、ACL41(8) 試合出場14(2) 得点。

◆何度も言いましたが昨季のリーグ戦は、3連敗するなど苦しいときも乗り越えて年間で一番多い勝点を取りました。胸を張っているシーズンだったと思います。ルヴァンカップも獲って多くの人と喜び合えたのが良かったです。

自分自身は、通算100ゴールも決めたし、初めてのハットトリックも決めて、もう思い残すことはない、と言ったこともありですが、レッズのみんなとJリーグのタイトルを獲得すること、そして僕はまだ獲ったことのないACLのタイトルを獲得すること、これが今季の目標です。

新しい選手たちとコミュニケーションを取りながら、やっていきたいです。



今季は良いスタートが切れる

31 DF イリツチ

★スロベニア出身。アスタナ(カザフスタン)から加入2年目。33歳。コンディショニングの不調もあり、なかなか試合に絡めなかったが、真面目な人柄でチームメイトへの溶け込みは早かった。今季はシーズンスタートから試合出場を目指す。

▼ACL1(1) 試合出場。



◆昨季、チームのみんなが素晴らしい協力をしてくれたおかげで、1年間を乗り切ることができました。残念ながら途中で股関節に大きな痛みを感じてしまい、その後もケガなどの日々が続きました。

シーズン後半からあらためてスタートしたような形で、みんなからの遅れを取り戻しながらやっていました。ケガと格闘しながら過ごした1年で、チームに貢献できなかったことが一番残念です。

今季はやっと最初からスタートができます。必ず昨季とは違う年にしたいです。今回は、第二の故郷に帰るつもりで日本にきました。ケガをしていない状態で、レッズのことや日本のことをよく学んだ状態で、良い準備ができていると思います。今季こそチームに貢献したいです。

局面でのドリブルに自信が

38 MF 菊池大介

★湘南から今季新加入。25歳。ユースから湘南で育ち、高校2年時にトップ登録されJリーグデビュー（J2）。2009年にトップ昇格した。2010年は草津（J2）に期限付き移籍し、翌年復帰してからはレギュラー出場し、二度のJ1昇格に貢献した。

▼Jリーグ96（32）試合出場8（3）得点、J2リーグ162試合出場24得点、ルヴァン杯13（5）試合出場1得点、天皇杯11（3）試合出場。



*写真= Jリーグフォト

◆湘南でチームメイトだった（遠藤 航や、永木亮太などがJ1のピッチやアジア、世界の舞台で躍動している姿を見て刺激をもらい、自分もこういうところでやりたい、やるべきだと思いました。

昨季まで、J1のチームと対戦して、本当に強いな、やられたな、と思ったのはレッズだけでした。そういう伝統ある強いクラブに加わって光栄ですが、試合に出なければ意味がないので、ピッチで結果を残せるよう頑張っています。局面でのドリブルにはすごく自信を持っていますし、目の前の相手を抜く、仕掛けるところとか、守備に関しても自信を持っています。

さらに成長できる環境に身を

39 MF 矢島慎也

★期限付き移籍先の岡山から今季復帰。22歳。2012年にユースから昇格。2015年から岡山に期限付き移籍し、2シーズンを中心選手として活躍した。年代別日本代表にも選ばれ続け、昨季はU-23代表としてリオ五輪に出場した。

▼Jリーグ12試合出場1得点、J2リーグ72（35）試合出場13（5）得点、ルヴァン杯11試合出場3得点、天皇杯9（3）試合出場1得点、ACL1試合出場。

◆レッズに戻ってきてうれしく思います。ジュニアユース、ユースのころから指導してくださった方々も、僕がレッズでやることを願っていてくれたと思うので、帰って来たい思いはありました。

岡山での2年間で大きく成長できたと思います。さらに成長するためにはもっと厳しい環境に身を置くことが大事だと思います。3年前はレッズでもできませんでした。今年にかける思いは強いんです。レッズは特殊なサッカーですし、出場すること自体が難しいと思うので、まずは試合に出ることが最低限の目標です。



*写真= Jリーグフォト

サッカーを進化させ謙虚さも

46 DF 森脇良太

★広島から加入5年目。30歳。守備での活躍はもちろん、機を見たサイドチェンジで何度もチャンスを出した。



▼Jリーグ249（33）試合出場17（1）得点、J2リーグ100試合出場9得点、ルヴァン杯35（5）試合出場、天皇杯17（1）試合出場3得点、ACL21（2）試合出場1得点。

◆昨季は絶対に自分たちは優勝できる、という自信がありました。チャンピオンシップ決勝第2戦の1試合で、1年間積み上げてきたものがなくなってしまうような感覚でした。もちろんルヴァンカップ優勝と、年間勝点1位の誇りはなくしてはいけませんが、最後の最後にシャレーを掲げられなかったことは、まだ何かが足りなかったということでしょう。

毎年、シーズン前の気持ちは変わりますが、このチームに求められるものは2位とか3位ではないし、自分たちもそれでは満足しません。今季は特に、シンプルに形に戻ったリーグ戦で優勝したいです。そのために、サッカーをより進化させると共に、みんなが謙虚にならないといけないのではないかと思います。それをしつかり伝えていきたいです。

2017シーズンの大会日程

さいたまシティカップ

2月12日（日）13時30分（浦和駒場スタジアム）
浦和レッズ vs FCソウル
*プレシーズンマッチ

FUJIFILM XEROX SUPER CUP

2月18日（土）13時30分（日産スタジアム）
鹿島アントラーズ vs 浦和レッズ

明治安田生命J1リーグ

2月25日（土）12月2日（土）
第1節 横浜F・マリノス vs 浦和レッズ
2月25日（土）/日産スタジアム
浦和レッズ vs セレッソ大阪
第2節 3月4日（土）/埼玉スタジアム
*キックオフ時間は1月25日（水）発表

JリーグYBCルヴァンカップ

グループステージ
3月15日（水）5月31日（水）
*レッズは出場なし
*プレオフステージ
6月28日（水）7月26日（水）
*レッズは出場なし
*フックアウトステージ
準々決勝
第1戦 8月30日（水）
第2戦 9月3日（日）

AFCチャンピオンズリーグ

グループステージ
第1戦 2月21日（火）vs W・シドニー・W（A）
第2戦 2月28日（火）vs FCソウル（H）
第3戦 3月15日（水）vs ブレイオフ勝者（A）
第4戦 4月11日（火）vs ブレイオフ勝者（H）
第5戦 4月26日（水）vs W・シドニー・W（H）
第6戦 5月10日（水）vs FCソウル（A）
*W・シドニー・Wはウェスタン・シドニー・ワンタラーズ
*ブレイオフは上海上港（中国） vs
（スコタイFC（タイ）vs ヤタポンFC（タイ））

スルガ銀行チャンピオンシップ

8月予定
浦和レッズ vs シャバコエンセ（ブラジル）
（埼玉スタジアム）

トップ、育成、レディース

安定して継続できるための施策を

— 山道守彦・強化本部長に聞く

— 2016シーズンのチームの成績をどう見ているか。

昨季の目標として掲げた、全ての大会において前年を上回る、というのは、2015シーズンの成績を考えれば、決して低いものではなかったと思ってい

ます。その中で天皇杯では4回戦で惜敗したものの、ACLではグループステージを突破し、ルヴァンカップではタイトルを獲得し、J史上最多タイの年間勝点を挙げて1位になったというのは、素晴らしいことだと思っています。

私自身、チャンピオンシップに敗れたことで、大きな喪失感と制度に対しての違和感を強く感じましたが、その感情に流されて本質を見失ってはいけな

い、自分を戒めています。浦和レッズはこの5年間、リーグ戦の勝点で常に前年を上回ってきましたし、2013年を除く4シーズンでACLに出場する成績を収めています。5年間の継続により、常に優勝争いをするチームになったと評価しています。

また昨季はルヴァンカップで久しぶりに優勝の喜びを共有することができました。これを足がかりに、常にタイトルを

獲得して喜び合えるクラブになっていきたいと思っています。

— 今季の補強についての考え方はどうだったのでしょうか。



新加入会見で補強の考えを述べる山道本部長 (1.11 / 埼玉スタジアム)

今のレッズのサッカーは、日本人に合ったものだと思

っています。チームの今の状況をさらに継続して安定していくために、どうするかを考えていかななくてはならない時期に来ています。その施策の一つが補強です。

先ほど述べたような位置にあるチームが、それを継続させる

ための補強というのは簡単ではありません。今回重視したのは、試合に出場している選手であること。それと将来を見据えて年齢的に比較的若い選手であること。さらにレッズのサッカーに対応できるポテンシャルと感性を持った選手。この3つが最低条件で、それとポジションのバランスです。

— 他の強化策はありますか。

選手にとって、施設が良いことはクラブの魅力の一つです。大原のクラブハウスも別棟が夏に完成し、食堂、選手のリラクゼーションルーム、仮眠所の新設、トレーニングルームの拡充が行われます。それにより、これまで一部、寮を利用していたものが、すべて大原で完結するようになり、チームや選手に非常に有意義ですが、加えて育成が寮を活用できるようになり、育成の環境もさらに充実できます。

— 育成の現況はいかがですか。

トップチームの成績が安定したことがクラブの経営を安定させ、将来への投資ができるようになりました。一つは練習場の与野八王子グラウンドに食事棟を増設し、練習後の補食を全員が一緒に摂れるようにしました。もう一つはレッズランドの一面をハイブリッド芝にしたことです。昨季のキャプテンを務めた渡辺陽選手は「僕たち個人に、素晴らしい選手、素晴らしい人間になれ、というクラブからのメッセージだと思っています」と話してくれましたが、その後にプレミア昇格という結果が出たことは非常に良かったです。また設立5年目になるジュニアは昨季、初めて県大会の決勝に進出しました。育成部門は、若干の体制変更をしながら、引き続きトップにつながる選手の育成と、人づくりをやっていきます。

— レッズレディースはここ2年、苦しい成績が続きました。毎年、選手の退団が目立つようですが。

女子の場合は契約がありませんから、

毎年、個別にレッズでプレーする意思を確認しています。みんなレッズを愛してくれていますが、何かあったときに移籍へのハードルは低い状況にあります。そういう意味ではチームの構想を立てにくいということもあると思います。

クラブとしてはできるだけプレーしやすい環境を作ることが大事だと考えています。たとえばレッズランドのハイブリッド芝導入やクラブハウスにお風呂を新設するなど、ハード面の整備。また練習後の補食の回数を増やし、勤務先の企業に協力をいただいて練習時間を早めたりして、トレーニングに臨むための環境改善も行っています。

我々が女子サッカーに力を入れているのは、もちろんサッカーの普及ということもありますが、日本女子代表の強化につながる育成を考えています。年次別の代表にも選手を多く輩出していますし、戦力的にはリーグ8位のチームではなく、優勝も狙えると思っています。

今回、後藤三知と白井理恵が退団しましたが、ジェフから菅澤優衣香が移籍してきました。また昨季特別指定選手だった筑波大の山守杏奈やU-17代表の大熊良奈が加入し、レディースユースから長野風花ら3人が昇格します。昨季、若手がだいぶ成長してきましたし、ケガで苦しんでいた清家貴子も復帰します。

指導体制としては、3シーズン半、指揮を執ってくれた吉田監督が退任し、石原コーチが監督を務めます。また、ホームタウン部のスタッフとしてやってきていた柳田美幸がコーチに就任します。今季のレディースに注目していただき、声援を送っていただければと思います。



興梠慎三

THE WARRIORS
文◎矢内由美子

真のベストゴールはこれから 秘策も引っさげ今季に臨む

わいたい」と願っているのだ。
レッズは今季もリーグに先立って
まずはアジアの戦いが始まる。

ミシャ監督就任後の過去5年間で
出た3度のACLに、興梠はすべて
出場してきた。13、15年はグループ
ステージ(GS)で敗退したが、昨
年のGSでは前年のアジア王者であ
る広州に1勝1分けとしたことがモ
ノを言い、ミシャレッズになってか
ら初のラウンド16進出。そこでは昨
季最強チームと目されていたFCソ
ウルを相手に、ホームでの第1戦で
勝利を収めた。

興梠は「強い相手に互角以上に戦
えたことはチームにとってプラスに
なっていると思うし、選手個々も『戦
えるんだ』という気持ちになったは
ず」と、昨季につかんだ手ごたえを
今季につなげていこうと意欲を燃や
している。

鹿島時代も合わせてACLで決め
てきた通算ゴール数は14。堂々の日
本人最多得点だ。この数字に象徴さ
れるように、興梠はフィジカル勝負
で守ろうとしてくるDFとのマッチ
アップをより得意としているという
実感がある。「自分としては背の高
いセンターバックの方がやりやす
い。それがACLの方がやりやすい
という感覚につながっているのだと
思う」と分析しているのだ。

思い返せば昨年はオーバーエイジ
枠でリオデジャネイロ五輪に出場
し、ナイジェリア戦、コロンビア戦、
スウェーデン戦で大柄で屈強なDF
のふところにフワフワと入り込み、
多彩なポストプレーを見せていた。
ナイジェリア戦ではPKでゴールも
決めている。帰国後は一時「燃え尽
き症候群」に苦しんだが、「リオで
は本当に良い経験をさせてもらっ
た。人生であんなに張り切ったこと
はなかった」と述懐していた。

昨季は24年間のJリーグ史におい
て12人しか到達していない通算10
0得点を達成するというトピックも
あった。

このとき、100得点の中でどれ
がベストゴールかと聞かれた興梠
は、「これを言うのは申し訳ないの
だけ」と前置きしながら、鹿島に
所属していた09年最終節の浦和戦で
のダイビングヘッドを挙げていた。
101点目から始まる今季のゴール
の中で、それを上回るベストオブベ
ストを生み出していききたいというの
が興梠の考えだ。

実は「秘策」がある。

「チームのみんなに、100ゴール
目はフリーキックで決めたいってず
つと言っていたんです。武器がもっ
とできればいいかなと思っっているの
で、これからはフリーキックのチャ
ンスがあれば蹴ってみたいと思っ
て。練習しますよ」

ニヤリと浮かべる笑みに、今季の
楽しみが膨らむ。

ミシャサッカーがピッチで鮮やか
なハートモニーを奏でるとき、最前線
の欠かせないワンピースであり続け
てきたのが背番号30だ。
興梠慎三にとって今季はレッズ加
入5年目。毎年口にはしている「今季
こそ、リーグタイトルを」という言
葉にいつそうの力がこもっている
と感じるのは誇張ではない。
昨季はルヴァンカップの初代王座
に就き、レッズに来て初めてのタイ
トルを手に入れ、もちろん、大いな
る喜びを味わった。ただし、その喜

びの中には、チームに07年のACL
優勝以来9年ぶりのタイトルをもた
らすことができたという安堵感も多
分に混じっていたように思う。
年間勝点1位という結果に対する
正当評価も胸の内にはある。だが、
リーグタイトルはやはり別ものだ。
鹿島時代にリーグ3連覇を果たした
ことのある興梠だからこそ、リーグ
優勝には格別のうれしさがあること
を知っており、だからこそ、「あの
瞬間をレッズのファン・サポーター
とともに迎え、あの歓喜を一緒に味

昨季はどこまで到達したか

2016年の浦和レッズを振り返る

★ミシヤ監督が就任して5年目となった昨季。浦和レッズは多方面で進化を見た。ここ5年間で、あるいはクラブ史上で最高の成績も記録し、10年ぶりに国内タイトルを獲得した。そこからさらに上積みを目指す2017シーズンの開幕を前に、レッズが昨季到達した位置を確認しておこう。

J最少、34試合28失点の守備

レッズがリーグ戦で喫した失点は28。この数字は昨季のリーグ最少であると同時に、レッズがリーグ優勝を果たした06年と並んでクラブ史上最少タイ記録



▲もちろん西川のセーブによるところは大きい



▲守備の集中力は過去最高に高かった

だ。G.K.西川が加入した14年も、それまでと比べ失点の少なさが際立っていたが、この年は終盤の7試合で10失点してしまった。昨季は同じく終盤の7試合で3失点と、リーグ戦終了まで堅守を貫いた。

昨季の守備の特徴の一つは、攻撃時のリスク管理意識を高め、相手のカウンターをしっか

りケアすると共に、前線の選手がプレスを怠らず中盤の選手と連携して相手ゴールに近い位置でボールを奪い返すことだ。もう一つは、自陣まで攻め込まれた場合に、ボールホルダーにしっかりと寄せながらも焦って取りに行かず、相手を自由に展開させない粘り強い守備に徹することだ。

この堅守は試合が進むにつれ磨かれていった。年間勝点上位のチームで第1ステージより第2ステージの失点が少なかったのはレッズだけだ。

*
*
*

我慢を続けるメンタルの強さ

粘り強い守備の背景になって



▲引き分けでは年間勝点1位の座を失うかもしれないが、磐田戦でも焦らず無失点を続けた(16.11.29/エコパ)

から自分たちが必ず点を取る」という、自信に裏打ちされたお互いの信頼感が非常に強く、守備面での我慢だけではなく、焦らないという攻撃面での我慢が、勝利につながった。一時的な我慢ではなく、我慢を続け

いる「我慢」は試合運び全体に表れた。守備サイドの選手は「しっかりと失点ゼロに抑えていれば、必ず前が点を取ってくれる」、前線の選手は「後ろがゼ



▲アディショナルタイムに決勝点が入った仙台戦、90分我慢を切らさなかった(16.7.13/ユアスタ)



▲森脇がくさびのパス、李がフリックでつなぎ、武藤がゴール。
鮮やかな連係で決勝点を生んだ川崎F戦（16.4.24 / 等々力）

5年目で成熟度が増した連係

身上の一つ、コンビネーションはシーズンを重ねることに成熟度が上がる。昨季は当然ながら過去最高の連係が見られた。単にパスがよく回るということではなく、最終的な形を複数の

するには強いメンタルが必要になる。第1ステージで4回あった無得点試合が、第2ステージではゼロだったことも、戦う中でメンタルが強化され、ドローを勝利にするという結果に結び付いていったことを示している。

* * *



▲シーズンを通して絶妙なロングパスを送っていた遠藤（16.10.22 / 新潟戦）

選手が頭に描いて動くようになった。チャンスを得点にする決定率では物足りなさがあつたが、ゴールの前提となるチャンスの数は、5年間で最も多かっただろう。

一方、前線の選手が密着マークされてくさびのパスが成功しにくいなど、展開によっては後方から1本のロングパスを通してシールドまで持っていく形も増えた。連係の成熟によって戦術が多彩になり、「手詰まり」になる状況が少なくなった。

* * *

戦う中で厚みを増した選手層

昨季は、2ndステージ第5節から8節までの4試合、リオデジャネイロ五輪日本代表に選ばれた遠藤と興梠が不在だった。またルヴァンカップ準々決勝、準決勝の4試合は西川、槇野、柏木、遠藤が日本代表でチームを離れた（遠藤は準々決勝のみ）。他にもケガや出場停止などで先発メンバーが変わることが少なくなかったが、代わりに出場した選手が遜色ない働きをした。のみならず、たとえばルヴァンカップ準々決勝で先発し、公式戦シーズン初ゴールを挙げた高木が、その後のリーグ戦でも得点するなど、先発候補



▲G大阪戦の4得点すべてに絡んだ駒井（16.10.1 / 埼スタ）

に割って入った。また新加入の駒井は、シーズン前半から出場機会があっても、なかなかゴールに絡めずにいたが、やはりルヴァンカップ以降、ゴールをアシストするなど本来の調子を取り戻した。新加入の遠藤にポジションを奪われた形の那須も、自己の研鑽を怠らず準備をする中で、遠藤の不在や不調の時期に先発して勝利に貢献した。

ミシヤ監督が先発11



▲ルヴァンカップに続いてリーグ戦でも連続ゴールを挙げた高木（16.9.25 / 広島戦）



▲3連敗の危機を脱すると10試合負けなしを続けた(16.8.13/名古屋戦)

最後に大きなものを逃がしたことで霞んでしまいがちだが、ルヴァンカップ優勝で10年ぶりに国内タイトル獲得の悲願を達成したことに併せ、この5年間で積み上げたものが成果として実を結んだシーズンだったことは間違いない。

合無敗を続けるなど、大きく崩れることがなかった。シーズンを通して、高いレベルで力を維持したと言える。

15年、レッズはクラブ史上最多タイの勝点72を挙げたが広島に上回られた。昨季はそのときの広島と同じJリーグ史上最多タイの74を取って年間勝点1位になった。途中、3連敗を喫する時期もあったが、自分たちのサッカーを見失わずその後10試

実を結んだこれまでの蓄積

人のチヨイスに迷うほどの状況は、チーム内の競争を激化させ、それがまた底上げにつながった。戦う中で選手層が充実していったことも、シーズン後半に好成績が生まれた要因だろう。

* * *



▲ルヴァンカップ優勝と年間勝点1位は5年間の成果(16.11.3/横浜FM戦)

各大会の成績

	リーグ戦	ルヴァン杯	天皇杯	ACL	概況
2011	15位	準優勝	ベスト8	—	J1残留争い。5節を残して監督が交代。
2012	3位	GS敗退	ベスト16	—	ミシャ監督1年目。榎野、阿部が加入。
2013	6位	準優勝	ベスト16	GS敗退	那須、興梠、森脇が加入。ACL5年ぶり出場。
2014	2位	ベスト8	3回戦敗退	—	西川、青木、李、関根が加入。無観客試合、応援アイテム自粛。
2015	3位	ベスト8	準優勝	GS敗退	武藤、高木、ズラタンが加入。2ステージ制導入。
2016	2位	優勝	ベスト16	ベスト16	遠藤、駒井、伊藤、イリッチが加入。10年ぶり国内タイトル。

*ルヴァン杯＝旧ナビスコ杯を含む

*GS＝グループステージ(旧ナビスコ杯の予選リーグも含む)

*2015年、2016年のリーグ戦順位はチャンピオンシップ後のもの

*新加入選手は今季在籍者のみ記載

リーグ戦の詳細成績

	勝点	勝点順位	勝ち	分け	負け	得点	失点	得失点差	公式順位
2011	36	15位	8	12	14	42	63	-21	15位
2012	55	3位	15	10	9	47	42	5	3位
2013	58	6位	17	7	10	66	56	10	6位
2014	62	2位	18	8	8	52	32	20	2位
2015	72	2位	21	9	4	69	40	29	3位
2016	74	1位	23	5	6	61	28	33	2位

*年間勝点は毎年、前年を上回っている。

*得点、失点は上下しているが、得失点差は毎年、前年を上回っている。

2002 - 2007年の各大会の成績

	リーグ戦	ルヴァン杯	天皇杯	ACL
2002	11位	準優勝	3回戦敗退	—
2003	6位	優勝	3回戦敗退	—
2004	2位	準優勝	ベスト4	—
2005	2位	ベスト4	優勝	—
2006	優勝	ベスト8	優勝	—
2007	2位	ベスト8	4回戦敗退	優勝

*ルヴァン杯＝ナビスコ杯

*2004年のリーグ戦順位はチャンピオンシップ後のもの

*2007年の天皇杯4回戦は32チームが出場



▲ここ5年間は、02～07年に次ぐ成績を安定して収めている

過去5年間の推移

ここまでレッズが積み上げたもの

★2016年の浦和レッズは、それまでのプロセスがあつて存在している。この5年間の成績を、前年と比較できる形で見ていこう。また参考資料として、過去に最も上位の成績を収めた時期のものを掲載する。

2017シーズンのレッズがなすべきこと

大住良之◎サッカージャーナリスト

どうすれば モヤモヤが晴れる

昨年は天皇杯決勝から新シーズン始動まで2週間にも満たなかった。今回、ミシヤや選手たちは、久しぶりにゆつくりと休み、完全にリフレッシュできたのではないか。

私自身のことを言えば、正直なところ、まだ引きずっている。あのチャンピオンシップの結果はまだ吹っ切れずにいる。その直後のFIFAクラブワールドカップでの鹿島アントラーズの見事なプレーを目の当たりにしても、まだもやもやが消えないのだ。

もしかするとそれは、Jリーグの表彰でミシヤが最優秀監督に選ばれなかったことや、最優秀選手が阿部勇樹でも柏木陽介でも西川周作でもない他のクラブの選手であるとかあったときに受けた衝撃が影響しているのだろうか。

「Jリーグは、どれだけ私たちに辱めたら気が済むのだろうか――」

それが、ニュースを聞いたときの私の正直な思いだった。J

リーグは自らを汚しているようにも感じた。

新しいシーズンが始まり、レッズが見事な試合を続けてくれたら、そのもやもやは晴れるのだろうか。すつきりと2016年の結果を受け入れるようになるのだろうか。

チームが次に 目指すものは何

だが、そんな思いは年老いたジャーナリストだけのものに違いない。ミシヤや選手たちは、きつといま、「前」だけを見ているだろう。

昨年末、ミシヤと話したとき、最後に彼の口から出たのは「75」という数字だった。

年間勝点が「74」でも「チャンピオン」になることができなかった。それなら「75」を目指そう。

あのチャンピオンシップからまだ数日しかたっていないから。しかしミシヤはすでに「前」を見ていた。プロフェッショナルである以上、過ぎ去った試合はことごとく「歴史」であるに



満員のスタンドが大きな推進力となる

過ぎず、存在するのは「次」だけだからだ。次の試合、次のシーズン…。

2005年にJ1が18クラブになり、年間の試合数が34になって以来昨年まで12シーズン、年間勝点が70を超えたチームは延べ11しかない（うちレッズが4回）。10年間は「72」が最多記録だったが、2015年に広島が「74」を記録し、2016年にレッズがその記録に並んだ。力が拮抗し、どんな結果も起こりうるJリーグにおいて「勝点74」はすでに限界、ある

いはそれに近い数字なのである。

計り知れない悔しさを味わったミシヤと選手たちの決意を、私は信じる。どんな不可能に見える目標を掲げたとしても、その目標だけを見据えて2017シーズンを戦い抜いてくれると信じて疑わない。2月の富士ゼロックススーパーカップから、ACLもルヴァンカップも、そしてもちろんJリーグも、2017年のレッズは目の前のタイトルを総ざらいしていくのではないか。そんな期待を抱いている。その力とはつくにある。

満員の埼玉スタ 押し上げよう

私が浦和レッズというクラブに今季期待するのは、地域の人びと、そしてサポーターたちとの熱烈な相思相愛関係をもういちど築くことだ。

あの2014年の事件を境に、埼玉スタの熱気が微妙に低下していると感じるのは私だけだ

ろうか。この2014年以後も毎年優勝争いを展開しているのに、埼玉スタへの来場者数が横ばいなのはなぜだろう。リーグ戦1試合平均入場者を見ると、昨年は一昨年の3万8745人を下回る3万6935人だった。サポーターが力の限りに声を上げて、スタンドに大きく空席が広がる埼玉スタでは寂しい。どんな天候、どんな相手でも4万人。「こそ」というときには6万人。満員の埼玉スタの圧力はチームを後押しし、私たち自身にこれ以上の誇りをもたらす。

そして埼玉スタの熱気が、ホームタウン一帯に広がる。2005年から2008年にかけて、「ウラワ」はそうした町だった。クラブと地域、サポーターのそれぞれが、互いへの愛情のなかで光り輝いていた。

ミシヤと選手たちは一歩ずつ歯を食いしばって「未踏峰」の「75」へとよじ登っていくだろう。彼らにふさわしい舞台を、満員の埼玉スタと熱狂するホームタウンを用意しなければならぬ。何よりもクラブが、そしてサポーターもホームタウンも、そのためにできること、するべきことを実行する1年にしよう。二度と昨年のような思いをしないように。

25周年を表現し、太さの違うピンストライプの先端部分を鋭く描く事で、流れるようなスピード感と躍動感を与えます。

キットには、2017年「Nike Global Football」におけるデザインコンセプトである“PROJECT LIGHT SPEED”に基づき、プレー中、常に速さを追求するアスリートが求める着心地や、肌触りといった機能性はもちろん、デザインにおいても速さを印象づけ、一貫性を持たせたデザインになっています。



動きに連動し空気を取り入れ エンブレム挟む 1992/2017

アスリートにとって、90分間最高のパフォーマンスを維持し続けるのは決して容易なことではありません。体温の上昇、ユニフォームの突っ張り、発汗によるべたつきなどが、パフォーマンスの妨げになります。

それを解決するために、今回のキットには、画期的なイノベーションであるカラーリベールテープが採用されています。マッチジャージとショートの側面に配置されたカラーリベールテープは、アスリートの動きにより連動し、大きなメッシュが現れた時に多くの空気を取り入れて体温の上昇や発汗、ユニフォームの突っ張りを抑え、アスリートにかかるストレスを軽減します。

首周りは、フロント部分をクリーンにカットする事で、着用時の不快感を軽減し、すっきりとした印象を与えると同時にスピード感を与える設計とデザインになっています。背面のリブには25周年を表すローマ数字“XXV”をデザインしています。

また、二つの年号“1992/2017”がエンブレムの両端に刻まれ、25周年を表現しています。



セカンドユニは初の蛍光黄色 黒が引き締め、力強さを表現

セカンドユニフォームは、クラブにとってこれまでにない革新的で斬新なボルトカラー（黄色の蛍光色）を使用していま

す。クラブエンブレムに使用されているイエローのサッカーボールからインスピレーションを得て、インパクトのあるボルトカラーが“LIGHT SPEED”を表現しています。イエローの持つ特徴として“WARNING”や“CAUTION”といった警告や注意を相手に促す効果があり、浦和レッズのイレブンがAWAYの地でも脅威となり、相手にとって危険な存在になります。



また、トップスとショーツにアクセントカラーとしてブラックを用いることで、色合いの拡張を抑え、デザインを引き締めています。さらに、ソックスもブラックにすることでより力強い印象を与えます。

*なお、2017ユニフォームの販売等につきましては、詳細が決まり次第、オフィシャルサイト等でお知らせいたします。




REX CLUB
REDS EXPERIENCE

レッズをたのしむ、レッズでつながる
浦和レッズ メンバーシップ

REX CLUB REGULAR (PREMIER CLUB)

新規・継続入会募集中!

年会費 大人 : 3,000 円(税込)
U-18 : 1,000 円(税込)

*U-18 : 2017 年 4 月 1 日時点で 18 歳未満

WEB入会でさらに
300 ポイント!



<https://www.rex-club.urawa-reds.co.jp>

— REX CLUB 会員専用オンラインチケットサイト — 「REX TICKET」サービス開始

- ◆ チケットがREX会員価格(当日料金なし)で買える!
- ◆ チケットが一般よりも早く買える!(会員先行販売)
- ◆ チケット購入でポイントが貯まる!

他にも特典満載。
ご入会はWEBまたはスタジアム
(ホームゲーム開催時)で

2017 新ユニフォームおよび ユニフォームパートナー



新たに三菱重工、 日本 KFC

2017 シーズンのユニフォームパートナーとして、新しく三菱重工業株式会社（以下、三菱重工）、日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社（以下、日本 KFC）の二社が加わりました。

三菱重工は浦和レッズの前身である三菱サッカー部が創部された企業であり、長く日本のサッカーの発展を支えてきました。このたび、浦和レッドダイヤモンズ株式会社の筆頭株主となったこととあわせ、ユニフォームパートナーとしても力強くレッズをサポートしてくれます。国内戦用ユニフォームの背中上部および ACL 用ユニフォームの胸にロゴが入ります。

日本 KFC はこれまで社会貢献活動の一環として少年・少女のスポーツ振興に力を入れてきましたが、「Jクラブへの協賛は今回が初めてです。レッズと同じ「赤」をブランドカラーの基調としています。今後、レッズのホームタウンにある KFC 店舗を中心に、さまざまな活動も展開していく予定です。国内用ユニフォームの背中裾部分にロゴが入ります。

<ユニフォームおよびプラクティスシャツのパートナー>

●国内戦用ユニフォーム

- ◆胸………ポラス株式会社
- ◆背中上…三菱重工業株式会社
- ◆背中裾…日本 KFC 株式会社
- ◆左袖……三菱自動車工業株式会社
- ◆パンツ…DHL ジャパン株式会社

●ACL 用ユニフォーム

- ◆胸………三菱重工業株式会社

●プラクティスシャツ

- ◆胸………三菱自動車工業株式会社
- ◆背中上…DHL ジャパン株式会社
- ◆背中裾…株式会社トーシンパートナーズ
- ◆左袖……カブドットコム証券株式会社
- ◆右袖……三菱 UFJ ニコス株式会社
- ◆パンツ…メディカル・ケア・サービス株式会社

<ユニフォームおよびプラクティスシャツのサプライヤー>

- ◆株式会社ナイキジャパン



2017 ユニフォーム概要

クラブ設立 25 周年前面に表現 速さを印象づけるデザインに

ファーストユニフォームは、クラブ設立 25 周年を表す“25”をローマ数字“XXV”で表現したグラフィックがユニフォームのフロント部分に大胆にデザインされ、それぞれのピストライプの束は 12 本で形成されており、チームワークやファン・サポーターとの結束を表しています。

中央の大きなダイヤモンドの中に、縦に描かれている 25 本のストライプもまた

★レッドボールページ (TEL048-824-0290) では、ショップスタッフを募集しています。詳しくはお電話を。

業務内容：店舗運営全般／時間：10 時～19 時＊シフト制。多少残業あり／時給：850～900 円＋交通費規定支給／資格：高卒・専門卒以上
＊土日祝日（試合日勤務）できる方、長期でできる方、接客業務経験のある方、大歓迎です。

Ｊリーグオフィシャル 浦和レッズイヤーＢＤ／ＤＶＤ２０１６

★１月２７日（金）からオンラインショップで
ＤＶＤ特典付き先行予約受付開始です。



＊ピッチでより成長した姿を披露し、前年を上回る結果を求めてスタートした２０１６シーズン。チーム内の競争が激しさを増し、ミシヤ戦術がさらに浸透していく中、たくましさをも身に付けたチームは、ＹＢＣルヴァンカップで９年ぶりとなるタイトルを獲得。さらに念願だったリーグ戦年間勝点１位を勝ち取って、最後のチャンピオンシップに挑んでいく…。

・収録時間 １５３分（予定）

・販売価格 ブルーレイ：５，４００円（税込）
ＤＶＤ：４，３２０円（税込）

＊ジャケットや商品概要は、変更になることがあります。

・先行予約特典ＤＶＤ 「浦和レッズ２０１６ ALL GOALS」（２０１６年の公式戦全得点を収録：３０分）

＊ブルーレイご予約の場合も特典ディスクはＤＶＤとなります。

**１／１８（水）正午まで！
２０１７シーズンチケット
新規申込キャンペーン！**

★現在、浦和レッズでは、２０１７シーズンチケット新規二次申込みの受付を実施中です。浦和レッズのホームゲーム２１試合が観戦でき、１試合ずつチケットをお買い求めいただくよりも料金もサー

ビスもとてもお得です！

また、シーズンチケットを購入すると「REX CLUB」の特別なカテゴリーである「LOYALTY」に自動入会！ポイントプログラムで「REX POINT」を貯めて、さまざまな特典と交換し、レッズライフを楽しんでいただけます。もちろん、シーズンチケット購入でもポイントが貯まります。

さらに２０１７シーズンチケットを新規お申込みの皆様（すでにお申込みいただいた方も対象となります）の中から抽選で、選手直筆サイン入りレプリカユニフォームなどの豪華賞品が当たるキャンペーンも実施中です。

新規二次申込みの受付期間は２０１７年１月１８日（水）正午までとなっておりますので、ぜひこの機会にシーズンチケットをお買い求めください！

お申込み及び詳細はこちら

<http://wpaiaa/reds-17/>

１月１５日、レッズフェスタ会場でも２０１７シーズンチケットの自由席の申込みを受付中です。

＊２０１７シーズンのＪリーグ試合日程は、１月

２５日（水）ごろ、Ｊリーグより発表予定です。

＊２０１７シーズンのホームゲームチケット販売スケジュールは、１月下旬ごろに浦和レッズオフィシャルウェブサイトでご案内予定です。

新規購入キャンペーン

選手直筆サイン入り
2016 レプリカユニフォーム

浦和レッズ
オリジナルタオルマフラー
非売品

抽選で
11名様

抽選で
200名様

※抽選は１月１８日までに行われます。抽選結果は抽選後２週間程度を目処に発表いたします。
※抽選は抽選当選者の氏名を抽選するものとします。抽選結果は抽選後２週間程度を目処に発表いたします。

2017 OSC の登録は2月15日スタート！

★２０１７シーズンの「オフィシャルサポーターズクラブ（OSC）」のご登録は２月１５日（水）から受付を開始します。

３人以上のグループで、クラブ名を付けて登録してください。登録料はメンバー１人あたり千円です。登録されたクラブには、公認サポーター

ズフラッグ（３人に１本）・認定トートバッグ・認定カード・認定ピンバッジをメンバー人数分お届けいたします。

今シーズンよりご登録専用サイトがOPEN！
（<https://www.reds-osc.jp>）

また、REX CLUB 会員（LOYALTY・REGULAR）の方にはREXポイントを一律 300 P 付与します（代表者のみ）。

浦和レッズホームゲーム会場内の登録ブースでもお申込みが可能です。皆さまのご登録お待ちしております！



▲公認サポーターズフラッグ（３人に１本）



▲認定トートバッグ



▲認定カード



▲認定ピンバッジ

ユースがプレミアリーグに昇格！ レディースユースは全日本女子ユース選手権準優勝

★浦和レッズユースは12月17日、19日に広島県で行われた高円宮杯U-18プレミアリーグ参入決定戦で2試合を勝ち抜き、2017シーズンからのプレミアリーグ昇格を決めた。レッズユースは1回戦で北信越地区2位の帝京長岡高校に4-0の大勝。決勝では、九州地区1位の長崎総合科学大学附属高に競り勝った。レッズユースが同リーグで戦うのは5年ぶり。

レディースユースは1月3日から7日まで大阪のJ-GREEN 堺で行われた第20回全日本女子ユース(U-18)サッカー選手権で準優勝した。2回戦で関東1位の日テレ・メニーナをPK戦で破り、準決勝では同2位のスフィーダ世田谷FCユースに5-0で大勝するなど、無失点で決勝まで進んだが、前年も準決勝で敗れたセレッソ大阪堺ガールズに決勝で完封負けした。

レッズレディースは12月18日に香川県のPikara スタジアムで行われた皇后杯第38回全日本女子サッカー選手権準々決勝でINAC 神戸レオネッサに延長の末敗れ、ベスト8に終わった。



5年ぶりのプレミアリーグ昇格を決めたレッズユース
(16.12.19 / 広島広域公園第一球技場)



第20回全日本女子ユース(U-18)サッカー選手権準優勝のレディースユース
(1.7 / J-GREEN 堺)



レディース：皇后杯第38回全日本女子選手権準々決勝・前半23分、白木が左サイドからライン際をドリブルで突破する(16.12.18 / I 神戸戦)



レディース：皇后杯第38回全日本女子選手権準々決勝・延長前半7分、塩越がシュートを放つがわずかに外れる(16.12.18 / I 神戸戦)

Youth ユース

◎高円宮杯U-18 プレミアリーグ昇格戦

■1回戦 ○4-0(1-0) 帝京長岡高

(12.17 / 広島広域公園第一球技場)

[レッズ得点者] 松高遼、大西翔也、O.G. 渡辺陽

■決勝 ○1-0(1-0) 長崎総合科学大学附属高

(12.19 / 広島広域公園第一球技場)

[レッズ得点者] 時里元樹

Ladies Youth レディースユース

◎第20回全日本女子ユース(U-18)サッカー選手権

■1回戦 ○10-0(5-0) FC今治ひうちレディース
(1.3 / J-GREEN 堺)

[レッズ得点者] 三浦晴香、長野風花2、小嶋星良2、高山のはら、ワタリユキ2、金勝里央、高橋美紀

■2回戦 ○0-0(0-0)(PK 4-2) 日テレ・メニーナ
(1.4 / J-GREEN 堺)

■準決勝 ○5-0(2-0) スフィーダ世田谷FCユース
(1.6 / J-GREEN 堺)

[レッズ得点者] ワタリユキ、長野風花、長嶋玲奈、一法師央佳、高橋美紀

■決勝 ●0-4(0-2) セレッソ大阪堺ガールズ
(1.7 / J-GREEN 堺)

Ladies レディース

◎皇后杯第38回全日本女子サッカー選手権

■準々決勝 ●0-1(前半0-0、延長0-1)
INAC 神戸レオネッサ

(12.18 / Pikara スタジアム)

▽レッズメンバー：GK 池田咲紀子、DF 長船加奈、栗島朱里(→臼井理恵)、高畑志帆、北川ひかる、MF 後藤りさ、猶本光、柴田華絵、加藤千佳(→高畑志帆)、FW 後藤三知(→遠藤優)、白木星、SUB 松本真未子、長野風花

※スコアの()は前半

この時期だから

25年間、この仕事をしているうちに、浦和レッズと無関係の知り合いが少なくなってきた。だから去年の12月は、どこへ行っても「12・3」を思い出す毎日だった。

年が明けても、初日から天皇杯決勝があったから、またそこで鮮明に思い出が湧いてきた。おまけに天皇杯の結果により、2月のスケジュールが、より忙しくなった。

負けたという事実はあるが、それだけが引きずった原因ではない。昨季のレッズはJリーグ史上最多タイの勝点74を挙げたが、たとえそれが勝点80だったとしても、大きな違いはなかった。この2シーズン、年間勝点1位というのは、チャンピオンシップ決勝という短期決戦に出場する資格に「格下げ」されていたからだ。

そんな、自分たちにはどうしようもない部分がある、モヤモヤの要因になっていたのだろう。

だが、それも今日までにしよう。

11日の新加入選手記者会見、そして翌日、大原で選手たちと会って、2017シーズンのスタートを実感した。日本サッカー界の「生類憐れみの令」と言わばき制度はもうない。名実ともにチャンピオンの資格である、年間勝点1位に向かって迷いなく突き進む。

タイトルに関する記録は、25年の間にだいぶ作られてきた。獲得総数、リーグ三連覇、三冠……

タイトル獲得そのものが簡単ではないのだから、それを重ねた記録はもつと難しい。

それでも今季レッズが目指せる記録は少なくとも、

たとえば海外で行われるFIFAクラブワールドカップに出場したJクラブはまだない。どこで行われようと大会の価値に違いはないが、日本国内と海外では戦いの難しさが違う。開催国ではなくアジアの代表として世界を目指す戦いは一度経験した。次はUAEで世界と戦いたい。

また07年にレッズが挑戦して果たせなかったJリーグとACLの二冠もまだ達成したクラブはない。

そして今度こそ、「Jリーグ史上最多勝点」でリーグ優勝したい！

この時期は夢を膨らませることが出来る。

その夢がシーズン前の準備に活気を付ける。

そして夢を夢のままで終わらせないために、それぞれができることはなんだろう。

開幕まで、あと一か月。

MDPのご案内

通算500号を超え、さらに進む



▲南広場の専用ブース



▲通算500号を超え、Jリーグでは最も長い歴史を誇っています（全MDPを表紙で振り返るバナー）

★浦和レッズは、公式戦ホームゲーム（Jリーグ、YBCルヴァンカップ、ACL）で、オフィシャル・マッチデー・プログラム（愛称 MDP）を発行しています。浦和レッズの情報が得られるだけでなく、試合前に読めば応援にいっそう力が入ります。

定価 300 円。試合当日のキックオフ 4 時間前から、埼玉スタジアム南広場の専用ブース、北広場のグッズ売店、スタジアム内コンコース専用ブースで販売しています。スタジアム外ではオフィシャルショップ・レッドボルテージ、浦和駅東口「浦和バルコ1階」レッズゲートにもあります。

遠方の方には、通信販売も行っています。こちらまでご利用ください（次ページに詳細）。



▲通常号のクロスワードでは、その号の表紙がプリントされたオリジナルTシャツが賞品になります

主な内容

- ミシャ監督からのメッセージ
 - 試合に向けた選手たちの意欲
 - 相手チームの紹介
 - 試合の見どころ
 - 前の試合を振り返る
 - 詳細な大会のデータ
 - 選手にスポットを当てたコラム
 - 選手インタビュー
 - チームメイトが仲間について語る
 - サポーターの声（投稿）
 - 応援に力が入るコラム
 - 素敵な賞品が当たるクロスワードパズル
 - その他、号替わり企画
- * 通常 32 ページ、最大 48 ページ

MDPへの投稿のご案内

- ★ 試合の感想、チーム・クラブへの意見、応援に関することなどをお寄せください。
- ★ MDP に掲載する際は、趣旨を変えない程度に書き換えることがあります。
- ★ 投稿には必ず住所、氏名、年齢、電話番号をお書きください。
- ★ ペンネームでの掲載はできません。本名での掲載となります。
- ★ クイズの応募ハガキに書かれたものも投稿として扱わせていただきます。

■ あて先 … 浦和レッズ MDP 係

【郵便】〒336-8799
日本郵便さいたま中央郵便局 私書箱92号
【FAX】048-814-3253
【eメール】matchday@urawa-reds.co.jp

★編集後記。浦和レッズは今年の3月10日で満25歳になる。ちなみに僕は3月で60歳。レッズと共に過ごしてきたのは人生のたった4割だ。92年から応援している50歳の人は、人生の半分以上をレッズと歩んできたわけで、うらやましく思う。昨季MDP 500号を発行して、一区切りついた気がしていたが、レッズとの歩みが自分の人生の半分以上を超えるぐらいまでは続けられるものなら続けたいと思う。（清尾）

Answer・解答欄

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

ヨコの力

- 江戸時代初期の老中、松平信綱は官名と能力の高さをもじって、こう呼ばれた。
- 「○○○○○トライアングル」は、飛行機や船舶が消失するという伝説のある大西洋の海域。
- 日常の行為の目標や方針となる事柄。
- 端午の節句に飾る像の一つ。長い髭と中国風の衣装で剣を持っている。
- 最近あまり見ない○○○○○カメラ。正式には「レンズ付きフィルム」という。
- プロ野球では冬に盛んになることから、選手の移籍関連話を「○○○○リーグ」と呼ぶ。
- 物事を進めるにあたり、頼りにできそうな人物。
- 「○○を憎んで人を憎まず」は孔子の言葉の中にも聖書にも出てくる。
- 日本では土木・建設工事の作業ズボンとして知られるが、元はゴルフなどのスポーツウェアだった。
- 金銭や物品の使い道。
- 干し椎茸のうち肉厚でかさが開ききっていないものを冬菇（○○○）という。
- 刑事裁判で有罪の場合、実刑判決の他に○○○○○○○が付く場合がある。
- 「赤」「セキ」は音読み、「アカ」は○読み。
- サッカーが強い高校がある熊本県菊池郡の町は「おおづ」。滋賀県の県庁所在地は「○○○」市。
- 刺身の○○として一般的なのは、千切り大根、ワカメ、ミョウガなど。
- ルヴァンカップの優勝トロフィーって○○○○○○製だって知ってた？
- 自分の名前を隠すこと。本名を知らせないこと。
- 商売を行うための建物。
- ギリシャ語で「新しい」の意味。

1		2	3	4		5		6
			K					
		7						
8	9		B					
		12			13		14	
15				16		17		18
						J		
22			19		20		21	
			H					
	F			23				L
		24						
26				27				
						D		
29	E							31
								A

注意 小さい文字は普通の字としても読みます。

通常ハガキに、答え、〒住所、氏名、年齢、電話番号を書き、〒336-8799 日本郵便さいたま中央郵便局 私書箱92号「MDP クイズ増刊号」係まで送ってください。余白に必ず、今シーズンのチームや選手への期待などを書き添えてください。1月31日消印有効。正解者の中から抽選で8人に今季レッズに新加入した選手（期限付き移籍からの復帰を含む）のサイン入りバンダナを、西川周作選手、遠藤航選手、槇野智章選手、阿部勇樹選手、柏木陽介選手、関根貴大選手、興梠慎三選手、武藤雄樹選手（昨季Jリーグ優秀選手賞受賞者）のサイン入りTシャツを各1人に差し上げます。当選者はMDP510号（2月28日 ACL FCソウル戦）に掲載します。

タテの力

A～Lの文字をアルファベット順に並べて文章を作ってください。

- 何種類かの具材を酢飯に混ぜ込んだり、上に乗せたりするのは○○○寿司。
- 年下の女のきょうだい。
- カボチャの仲間だが、外見はキュウリに似た海外原産の野菜。
- タイの通貨。1000は3円ちょっと。
- ジェフ千葉の正式なクラブ名はジェフ○○○○○○市原・千葉。
- 「ガ」「ザ」「ダ」「バ」などの「」を何という？
- オセロは○○○を取るか取られるかが勝敗を左右する。
- 大またで堂々と歩くこと。
- オバマ氏の前のアメリカ大統領は？
- 2人の人物を一つの画面に収める写真撮影。
- 現役最年長の棋士として知られるのは？
- イタリアの大衆的な歌曲のこと。
- 「外国」とほぼ同義義。
- はしごを水平に固定したような遊具。
- 節分で豆をまいて追い払うのは？
- 選手は動き回ると疲れるが、ボールは○○をかかない。



HAPPY BIRTHDAY 応募要領

●よくお読みください●

★リーグ戦、ルヴァンカップのホームゲーム当日が誕生日のレッズサポーター、ファンの方をMDP誌上で紹介します。「お名前（ふりがな）」「住所」「電話番号」「生年月日」「性別」「新年齢」を下記へ送ってください。必ずハガキをFAXで、「誕生日の7日前必着（郵送の場合、ご注意ください）」です。複数人の方の応募はそれぞれ別にお願います。

締め切りを過ぎたものや、記入もれがある場合は掲載できませんのでご注意ください。ご本人以外の方が応募する場合は、必ずご本人の承諾を得て、応募者の電話番号を書き添えてください。なお場内アナウンスで紹介する時間は場内放送「GO REDS GO」開始後となります。

■あて先 浦和レッズMDP[HB係]

- ハガキ：〒336-8799 日本郵便 さいたま中央郵便局 私書箱92号
- FAX：048-814-3253
- Eメール：使用できません

MDP 定期購読・バックナンバー 通信販売のご案内

★MDP 通常号を定期購読できます。遠方の方、試合当日MDPをご購入いただけない方、必ず手に入れたい方におすすです（試合当日にはお手元に届きません）。1シーズンを通しての年間定期購読には特典もあります。また発行後にはバックナンバーを通信販売で入手できます。

■年間定期購読（特典付き）

郵便振替で「2017シーズン年間定期購読希望」と書き、1シーズン分の代金8,022円を添えて郵便局窓口でお申し込みください。

内訳：300円×21試合（リーグ戦17+ACL3+ルヴァン杯1）+送料82円×21回
なお、今季の初回発行は2月28日（ACL FCソウル戦＝510号）となりますので、2月15日（水）までにお申し込みください。この日を通ると、510号が完売している場合があります。

・特典1：年間定期購読をお申し込みの方には、ACL ノックアウトステージ、ルヴァン杯準決勝へ勝ち進んだ際のMDP通常号を無料でお送りします。あらかじめ申し込まれる必要はありません（通常号以外の特別号を除きます）。

・特典2：年間定期購読をお申し込みの方には、ご希望の公式戦先発集合写真（2L判プリントまたはPC壁紙用データ）を1枚差し上げます（シーズン終了近くにあらためてご案内いたします）。

*いずれも年間（21冊）定期購読を予約された方への特典となります。

■郵便振替申込要領

口座番号 00160-0-729287
口座名称 富士ゼロックスサービスリンク株 MDP 係
郵便局にある「郵便振替払込用紙」に口座番号、口座名称、金額、お客様のおところ、おなまえ、電話番号を明記し、通信欄に詳細を記入してお申し込みください。

*お申し込んだ個人情報は、MDPに関する送付物以外に利用することはありません。

■バックナンバー

郵便振替をご利用ください。郵便振替用紙の通信欄にご希望の号数を記入し、「1冊300円（本体）×冊数+送料（5冊まで82円）」の代金を添えてお申し込みください。なおバックナンバーは完売の号もありますので、必ず事前に「富士ゼロックスサービスリンク株式会社」までお問い合わせください。

■お問い合わせ先

〒108-8410 東京都港区芝5-33-8
富士ゼロックスサービスリンク株式会社
浦和レッズ MDP 係
TEL 03-5765-2036
担当 浦川
(受付時間：平日9:00～17:30)



定価 0 円 (本体 0 円)

浦和レッドダイヤモンズ オフィシャル・マッチデー・プログラム 2017 増刊号 2017 年 1 月 15 日発行

発行・編集 浦和レッドダイヤモンズ 〒336-8505 さいたま市緑区中野田 500

TEL 048-812-1001 FAX 048-812-1212 <http://www.urawa-reds.co.jp/>

編集協力 株式会社清風庵

写真 加藤澄人／スタジオアウバ／神山陽平／清尾淳／Jリーグフォト

デザイン 株式会社ミネバ

印刷 富士ゼロックスサービスリンク株式会社